

平成30年度栗東市教育委員会第2回臨時会会議録

開催日時 平成30年8月30日(木) 15:00～16:10
開催場所 栗東市役所4階第1委員会室
出席委員 教 育 長 福原 快俊
教育長職務代理者 内記 一彦
委 員 朽木 徳壽
委 員 林 史代
委 員 田中 和子
事務局出席者 教育部長(加藤)、教育総務課長(川崎)、学校教育課長(河口)、
学校教育課指導主事(高田)、書記(濱田)

開会宣言 15:00

教育長

ただ今より平成30年度栗東市教育委員会第2回臨時会を開会にあたりまして、本日は傍聴の申し出が3名ありましたので、教育委員会傍聴規則2条によりまして許可することに異議はございませんでしょうか。

他委員

異議なし

教育長

異議なしとのことなので、傍聴を許可します。傍聴人を入室させてください。傍聴人の皆様にお知らせします。傍聴人の皆様は注意事項を遵守していただくようお願いいたします。なお、注意事項に違反された場合は退出を命じることもありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより平成30年度栗東市教育委員会第2回臨時会を開催します。

日程2 議案第3号「平成31年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択につき議決を求めることについて」事務局より説明をお願いします。

学校教育課長

議案第3号「平成31年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択につき議決を求めることについて」説明申しあげます。公立の各小中学校で使用する教科用図書の採択については、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」の規定により、採択地区協議会が設置され、この協議会で行われた教科用図書選定の結果に基づき、各市教育委員会で年度ごとに採択することになっております。

資料1の1頁から2頁をご覧ください。本市が所属する教科用図書第二採択地区協議会の規程を載せております。この教科用図書第二採択地区協議会は、草津市、守山市、野洲市、湖南市、甲賀市、栗東市の6市で構成されており、それぞれの教育長、教育委員代表、保護者代表を委員とする協議会です。この協議会において、第二採択地区内の各市立小中学校で使用する教科用図書が選定されます。3頁が本年度の協議会委員の皆様です。

次に本日議決を求めることならびに第二採択地区での教科用図書選定までの経緯と結果について説明いたします。4頁が今年度の経緯となっております。本年度は、中学校で使用する「特別の教科 道徳」の初めての教科用図書採択年であります。また、小学校「特別の教科 道徳」以外のすべての教科において、4年に1度の採択替えの年になります。現在までに協議会を2回、代表協議会を1回、幹事会を3回開催しました。5月25日から7月17日にかけては、各市より選出した委員による調査委員会を開催し、厳正かつ精密な調査を行いました。8月9日の協議会では、中学校で使用する「特別の教科 道徳」、小学校 特別支援学級、中学校 特別支援学級の調査委員会より調査報告を受け選定し、第二採択地区としての議決を行いました。小学校 「特別の教科 道徳」以外の教科用図書については、昨年度の検定で新たな図書の申請がなかったため、平成25年度検定合格図書の中から採択を行うこととなります。文部科学省、滋賀県教育委員会からは、「4年間の使用実績を踏まえつつ、平成26年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えること」との指導を受けています。

小学校 教科用図書については、学習指導要領改訂に伴う採択替えを来年度も行うことになり、2年続けての採択替えは、子どもたちの混乱をまねく可能性があると共に、学校現場に大きな負担がかかること、また、現在使用の教科用図書について、学校現場で不都合が起こっているという声はあがっていないということから、平成26年度の調査研究報告と4年間の実績を踏まえて現在使用の教科用図書を選定し、第二採択地区として議決を行いました。

中学校については、平成27年度が採択替えの年であり、平成28年度から平成31年度までの4年間、同じ教科用図書を使用することになっていきますので、来年度も今年度と同じ教科用図書です。

平成31年度使用教科用図書選定一覧は、議案書1頁からになります。

1頁から2頁が小学校 通常学級で使用するものの一覧と理由で、現在使用しているものと変更ありません。3頁から5頁は、特別支援学級で使用する一覧です。特別支援学級で使用するものについては、学校教育法附則第9条の規定により、文部科学省著作本と検定本以外にも、絵本などの一般図書からも選定することができます。知的障害学級用については、道徳科において『みんなのためのルールブック』『絵でわかる子どもの生活図鑑④おつきあいの本』の2冊が新たに選定されました。続いて、中学校は、6頁から7頁が通常学級で使用するものの一覧と理由で、「特別の教科 道徳」において『日本文教 中学道徳 あすを生きる』が新たに選定されました。他の教科については、変更ありません。中学校 特別支援学級の一覧は、8頁から10頁です。外国語科において『親子ではじめる英会話』

てん①らくらくひとこと編』『We Can! ①』『We Can! ②』の3冊が新たに選定され、道徳科において『やっぱり こういうときどうするんだっけ』『こころのふしぎ なぜ? どうして?』『未来へむかう心が育つおはなし』『イラスト版 気持ちの伝え方』の4冊が新たに選定されました。なお、弱視学級については、通常学級で採択された教科用図書の拡大版と文部科学省著作本の点字版の教科用図書を選定しています。以上でございます。

教育長

議案第3号について説明を頂きましたが、第二採択地区協議会で審議された「中学校 特別の教科 道徳」の文部科学省検定本、ならびに「特別支援学級」一般図書がお手元にあります。今日まで委員の皆様には十分ご覧頂いているところではございますが、再度ご覧頂き、事務局より説明を受けた後、ご意見を頂きたいと思っております。

(各委員閲覧)

教育長

ただ今、「中学校 特別の教科 道徳」の文部科学省検定本、ならびに「特別支援学級」一般図書をご覧頂きました。協議会において、調査委員会より報告されました「中学校 特別の教科 道徳」と「特別支援学級」についての調査結果の概要について、事務局より説明をお願いします。

学校教育課指導主事

それでは、協議会にて調査委員会から報告されました教科用図書について簡単にご説明申し上げます。まずは、「中学校 道徳」の観点についてご説明させていただきます。

「中学校 道徳」の観点については、以前ご覧いただきましたとおり、「内容の取扱い」についての5つの観点と、「資料・学習指導に関わる構成等」についての2つの観点、全部で7つになります。今年度は、第1回協議会で意見があり、各市教育委員会の思いを反映させたものになっています。内容についてご説明申し上げます。「中学校 道徳」の観点は、小学校とのつながりを考え、小学校のものをベースに学習指導要領に示されている内容、滋賀県教育委員会から出されています研究調査観点の内容を踏まえ、設定されました。そして、各市教育委員会から多数の意見がありました「いじめ」「人権尊重」「世界平和」、そして、多くの意見に関係のある「多様性の尊重」が小学校のものより新たに付け加えられています。今回調査を行いました教科用図書は、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」「光村図書」「日本文教」「学研教育みらい」「廣済堂あかつき」「日本教科書」の8者から発行されたものです。それでは、それぞれの教科用図書に対する調査結果を簡単にご説明申し上げます。まず、最初に「東京書籍」です。1年生の目次をご覧ください。この教科書の特徴は、「いじめ」や「生命尊重」に関して、一つのテーマで3つの教材を組み合わせることで、ユニットを作ることで、テーマについて多面的・多角的に考えさせるようにしているところです。

27頁のような冒頭の投げかけや30頁のような生徒が親しみやすい漫画でねらいに迫る工夫がなされています。94頁をご覧ください。読み物を読んだ後に、「～の場面をやってみよう」といった投げかけ―「Action!」の設定により、生徒が読み物の登場人物になって役割演技をしたり、グループで話し合ったりすることを通して、実感をもって道徳的価値の理解を深め、考えることができる工夫もあります。巻末にホワイトボード用紙や心情円など、授業支援ツールが挿入されているといった工夫もあり、多様な授業形態を仕組む上では有効であると思います。ただ、少し横長でありますAB判は扱いにくいのではないかという意見が出ました。また、82頁、83頁のように見開きで読み物等が完結していない教材もあり、次の教材が見開き左側にあることで、そちらに気がとられる生徒が出てくることも予想されるところの報告を受けました。

次に、「学校図書」です。ねらいに迫る多彩な教材、漫画や新聞、統計資料等、様々な媒体を用いた教材があり、生徒に訴えかける紙面作りがされています。読み物には、学校生活や家庭生活の日常場面が取り上げられ、生徒がわが身に引き寄せて考える工夫がなされています。1年生の47頁をご覧ください。教材ごとに「学びに向かうために」が設定されており、「意見交換」のマークによってグループでどんなことを話し合うのかが分かり易く示されています。また、43頁をご覧ください。教材末にある「心の扉」は、読み物教材と併せてものの味方や考え方を深めていけるようになっており、ねらいや価値の確認、自分を振り返るときに有効であるとの報告を受けました。行間の取り方、文字の大きさ共に、読みやすい設定となっていますが、先ほども述べたようにAB判は、扱いにくいのではないかという意見が出たことと、教材の文章が少し長く、生徒にとってはやや難解ではないかとの報告を受けました。次に「教育出版」です。この教科書は、生徒の生活実態に合わせ、生徒が共感的に読めたり、切実感をもって考えられたりする教材を数多く掲載しているところが特徴と言えます。1年生の38頁をご覧ください。教材の種類についても現代的で、多様な課題を生徒に考えさせることができるようになっていきます。2頁をご覧ください。巻頭の「道徳びらき」で1年間の学びの見通しをもたせ、191頁の巻末の「心かがやき度」で学習を終えた実感を★印を塗りつぶしたり、学期ごとの振り返りを記入したりする欄が設定されており、自分の成長を残す工夫がなされています。また、77頁の「やってみよう」の活動の頁では、役割演技や話し合いを通して、自分事として考えさせたり、様々な立場に立って考えさせたりすることができます。ただ、「いじめ」を直接的に取り扱った教材が弱いのではないか、また、131頁のように二段組で掲載されている教材が複数あり、読みづらいのではないかという報告を受けました。

次に「光村図書」です。1年生の2頁の目次をご覧ください。この教科書は、年間を4つのシーズンに分け、シーズンごとの「学びの記録」を巻末のシートに記入し、内面の変化や成長を振り返る構成となっています。この教科書は、「生命を大切に作る心」の育成に重点をおいており、各学年に3本ずつ系統立てた教材が収録されています。また、漫画で考えさせる教材もあり、生徒が親しみをもって道徳的価値について考えることもできます。212頁をご覧ください。各学年の付録「学びの広場」に、小学校の定番道徳教材をもってきて、

学び直しを通して、中学生として変化、成長した自分を実感し、それを語り合うことで、深い学びにつなげることができるよう配慮もされています。また、38頁をご覧ください。コラムも設定されていて、教材や学級活動等と関連付けて活用でき、より深い学びができるようになっています。ただ、全体的に少々地味な印象の教科書であり、中学生の視点からすると、読んでみたい、考えてみたいと興味をひくような教材が少ないのではないかと、また、情報モラル、いじめについてのおさえが弱いといった報告を受けました。次に「日本文教」です。現代的な課題を題材とした教材が網羅されています。1年生の目次をご覧ください。特に、いじめに関しては間接的なものや直接的なものやスキルを身に付けるもの等、多彩な教材が学年ごとに用意されています。教材の配置についても、1年を導入期、発展期、充実期と段階を踏まえて計画されており、担任をはじめとした指導者が、学級集団の成熟とともに、生徒に考えを深めさせることができる工夫がなされています。コミュニケーションの意義や在り方を取り上げた教材が配されているのも特徴です。道徳の授業で学習したことを、学校生活等で実践しやすいような構成となっています。100頁をご覧ください。資料の中で、話し合い活動を行うための方策が段階的に写真つきで示されており、対話的な学びが行えるようになっています。また、82頁をご覧ください。教材ごとに、登場人物のアイコンが掲載されていて、話の内容を理解し易い配慮もなされています。地域教材も適切に配されており、2年生の120頁には、滋賀県内の中学校の取組も取り上げられています。また、この教科書は別冊「道徳ノート」が用意されています。ノートには、友だちの考えを書き込む欄があり、多様な見方、考え方が意識できるようになっており、評価への活用もできます。心に響く定番教材も備えつつも、色あせない見せ方がされており、教科書全体を通じて躍動感を感じます。写真も大変美しく、迫力があり、様々な価値を理解する一助としては大変効果的であるとの報告を受けました。

次に「学研教育みらい」です。この教科書は、道徳的価値が高いと定評のある教材を中心に、現代で活躍する人や先人の生き方から学ぶ教材など、多彩な資料が配されています。27頁の「深めよう」、107頁の「クローズアップ」、65頁「クローズアッププラス」の3種類の特設頁が設けてあり、体験的学習や視点を変えて考えられる工夫がなされています。また、本文より前に主題名を書かないことで、生徒自らが気付くことを大切にしたい構成となっているところが特徴です。このことにより、議論の自由度が高くなり、多面的・多角的な学習ができるよう工夫されています。教科書のサイズを活かしたダイナミックな写真づかい、挿絵が美しく、また、大きくて印象的です。ただ、他の教科書に比べて一回り大きく、その割には、字が小さく見える印象があります。中学生の教科書としては、このサイズは大きく扱いにくいのではないかと、また、本文が二段組となっており読みにくいとの報告を受けました。

次に「廣濟堂あかつき」です。この教科書は、「いじめ」、「生命尊重」に重点をおいた構成となっています。また、スポーツに関するものを多く採用するなど、生徒にとっては分かり易い教材が多いです。さらにキャリア教育、防災教育など、現代的な課題に関する教材も多数あり、生徒が問題意識をもって考えられる工夫がなされています。また、この教科書

には、「道徳ノート」があるのも特徴です。ノートは、教材について考えるための補助的なものではなく、別冊として内容項目ごとに分かれていて、内容項目に関する読み物や記述が設けられており、本冊と別冊ノートの2冊が一体となって作られているところが特徴と言えます。終末や事後学習などで道徳ノートの教材を読むことを通して、生徒がさらに考えを深められるようになっていきます。ただ、別冊の「道徳ノート」については、本冊の教材と、別冊の教材と2つを使いこなすことが難しいのではないかという意見が出ました。また、定番資料については、時代設定が古く、ある程度の知識や想像力が必要で、理解しづらい生徒も出てくるのではないかとの報告もありました。全体的に、写真が小さかったり、挿絵が少なく、古めかしい感じがしたりするので、生徒が取っつきにくいとの報告を受けました。

最後に「日本教科書」です。この教科書は、実在の人物と実話に学ぶことができ、キャリア教育の視点から、自己実現につながる工夫がされています。また、日常生活の身近な内容で、登場人物等身大の悩みを共有できる教材も見られます。また、130頁をご覧ください。絵のみで構成した教材があり、一つの教材を様々な道徳的視点から考えられるように工夫がなされているのも特徴です。ただ、全体的に多く配置されている先人から学ぶといった教材は、生徒に感動を与えられたとしても、わが身に引き寄せて考えるといった展開にはつながりにくい、少し押しつけがましい印象があるといったこと、また、要所を抑えて写真やイラストが配置されてはいるのですが、ダイナミックさ視覚に訴える力は弱いのではないかという報告を受けました。以上、8者の研究結果の報告をご説明させていただきました。そして、副委員長から、最初に申しあげた観点により「日本文教出版」が最もよい評価であったとの報告を受けました。2番目に評価が高かった「学校図書」と「光村図書」との3者について、再度協議が行われ、「日本文教」と、2番目に評価の高かった2者との大きな違いである「道徳ノート」の有無について議論がなされたようです。中学校現場においては、一人でじっくり考える手立てとして、ワークシート等を使った授業も散見されることから、「ノートがある方が良いのではないか」という意見が出たこと、ただ、指導する上では、「ノートに発問が書かれているのは、使いづらい」という意見も出されたとの報告を受けました。しかし、このノートは、授業をする上で、使いづらい場合は、指導書 附属のCD-ROMにより、発問無しや発問変更といったワークシートのアレンジができますし、たとえ、ワークシートを使用したとしても、そのワークシートを授業後、このノートに貼ることで、生徒が書いた内容が散逸しない、授業の展開に応じて部分的に使える、工夫次第で無理なく使用でき、評価や家庭との連携を図る上でも活用ができることから、道徳ノート付でも良いであろうという事となったようです。教材の内容、仲間や先生とより深く、楽しく考えられるような工夫、活用しやすい挿絵、教科書のサイズ等、この日本文教の教科用図書は、そのコンセプトにある「躍動感」が紙面を通して良く伝わってきて、今を生きる中学生の心にも届くものであり、トータルとしてバランスのよい仕上がりとなっていることから、今回の調査結果としては、8者の中で、「日本文教出版」発行の教科用図書が最も適切であるという結果に至ったとの報告を受けました。続いて「小学校 特別支援学級」で使用される教科用図書についてご説明します。昨年度、道徳科の一般図書として4冊が選定されましたが、そのうちの1冊『ワンダ

「4さいのおはなし」が供給不能となりましたので、今年度は、道徳科を中心に選定作業が行われました。その結果、新たに2冊が道徳科の一般図書として加えられました。合同出版社『絵でわかるこどものせいかつずかん ④おつきあいのきほん』と草思社『みんなのためのルールブックあたりまえだけれど、とてもたいせつなこと』です。知的障害学級の道徳は、特別支援学校の指導要領に準ずるとされ、「内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。」としています。従って、特別支援学級においては、自立活動や生活単元学習のなかで具体的な体験を踏まえ行う機会が多いと想定し、次の3点を重点に、選定する図書の候補をあげられました。

1つ目は、自立活動や生活単元学習などで指導ができるものであり、複数の学年が活動する単元で約束事を決めたり、そのとき起こった課題を解決したりする指導として使用できる共通項としての図書であること。2つ目は、従たる障害に自閉・情緒の障害をもち、コミュニケーションに課題がある児童が多いのが現状であることから、円滑なコミュニケーションや人間関係をつくるために社会性を養うことができるものであること。3つ目は、発達年齢は指導者側には有効な情報であるが、それを使用する児童や保護者にとって、『道徳科』の教科書としては不要の情報として配慮されるべきものと考えるので、発達年齢が表記されていないものであることです。

この重点より、それぞれの委員が推薦する図書が30冊あまり集まった中から、次の5つの観点により選定作業が行われました。観点は、①明るい生活態度を養うとともに、豊かな道徳的心情を育てる内容になっているか。②日常生活に関連した題材を用いるなど、児童が意欲的に学習できるような構成、配列、分量になっているか。③イメージや思考が広がるよう、内容がわかりやすく工夫されているか。④表現、表記は分かりやすく、児童に適しているか。⑤写真、さし絵などが適切に取り入れられており、児童の興味、関心を喚起するように工夫されているかです。選定した結果、全員一致で先程紹介しました2冊が選定されたとの報告を受けました。

「絵でわかるこどものせいかつずかん ④おつきあいのきほん」の選定理由は、1つ目は、コミュニケーションのとり方の具体例が日常の場面を想起できるように、基本的な事柄がわかりやすく取り上げられていて、「～しましょう」という文末表現が多く、自分の生活や心情に照らし合わせて素直に考えることができること。2つ目は、人とのつきあい方の基本となる内容が見開き2ページずつの20項目に分かれて構成されていて、1時間単位の学習も可能であり、指導計画が立てやすいこと。3つ目は、「こまったとき」「かなしいことがあったとき」など、自分の感情や思いを伝えにくい場面や人の関わり方が難しい場面の例がいくつも取り上げられており、日常生活の実際場面に役立てることができること。4つ目は、文章表現が簡潔で分かち書きや吹き出しの活用等の表現の工夫がされており、児童に理解しやすく、文字の大きさも適切でやわらかく暖かな色づかいがされていて親しみやすいこと。5つ目は、紙質が上質で、どのページにも明るく親しみやすいイラストが描かれていて、イラストに沿って役割演技による学習を取り入れることも可能であり、

児童が意欲的に学習に取り組むことができることです。

次に「みんなのためのルールブック あたりまえだけど、とても大切なこと」の選定理由は、1つ目は、前向きな表現で記述されており、児童が素直に受け入れやすく、具体的な望ましい態度や他者を思いやりたり自分を大切にしたりする道徳的心情を育てる内容であること。2つ目は、日常生活に関連した題材であり、一つひとつの内容が短くわかりやすくまとめられていて、児童が具体的な場面を想起したり、今後の自分の行動として捉えたりして、意欲的に学習ができること。3つ目は、具体的な行動とその結果が簡潔に表現されており、なぜその行動がよいのかを考えたり、期待される効果に気づいたりでき、ルールを守ることが自分のためになるというイメージがもちやすいこと。4つ目は、一つひとつのルールについて、見開き2ページにまとめられていて、右側のページに「行動」、左側のページに「理由や期待される効果」が簡潔に表現されており、児童にわかりやすいこと。5つ目は、すべてのページに、その場面の心情を表現した親しみやすい挿絵があり、児童の興味・関心を喚起するように工夫されており、挿絵の表情からも人の気持ちが想像できるとの報告を受けました。

続いて「中学校 特別支援学級」で使用する教科用図書についてご説明します。今年度は、新たに教科となります「特別の教科 道徳」および、昨年度、供給不能となりました外国語の一般図書において選定作業が行われました。

調査研究は、4つの具体的な観点を設けて行われました。

観点の1つ目は、望ましい生活態度を養うとともに、豊かな道徳的心情を育てる内容になっているか。2つ目は、日常生活に関連した題材を用いるなど、生徒が意欲的に学習できるような構成、配列、分量になっているか。3つ目は、表現、表記はわかりやすく、生徒に適するよう工夫がされているか。4つ目は、資料、写真、さし絵などが適切に取り入れられており、生徒の興味、関心を喚起するようなものとなっているかです。

それでは、選定されましたそれぞれの図書につきまして、説明させていただきます。はじめに、外国語についてです。1冊目は、三省堂の「親子ではじめる英会話絵じてん①らくらくひとこと編」です。これは、日常会話でよく使われる会話表現がたくさん集められています。「あいさつをする」「お礼を言う」など、どのような状況や場面で使うのか、イラストを見ればすぐわかるようになっています。外国の生活の様子にも関心をもって学べるように工夫されている点も評価したとの報告を受けました。2冊目は、文部科学省の「We can! ①②」についてです。これは、外国文化に興味を持たせたり、日本文化を外国に紹介したりするなど、日常生活の中で、関心が持てる話題や出来事が扱われています。そのため、学習活動の動機づけが高まるだけでなく、生徒が表現してみたい学習内容となっています。また、イラストつき単語リストについては、カード形式になっており、生徒の学習活動に繰り返し活かせるかせるものとなっていることも評価できるとの報告を受けました。次に、道徳についてです。道徳の一般図書につきましては、初めての教科化ということもあり、滋賀県教育委員会の「選定に必要な資料」に掲載されている本を対象に検討が行われました。1冊目は、毎日新聞出版の「やっぱり こういうときどうするん

だっけ」です。これは、生徒が会おうような身の回りにある課題を取り上げ、自分で対処していくことができるように展開されています。また、解決に向けて、明るい展望が持てるように工夫されています。文章と漫画で構成されており、生徒の興味や関心を高める点が多いことから選定したとの報告を受けました。

2冊目は、高橋出版の「こころのふしぎ なぜ? どうして?」です。これは、人間の感情・記憶・思考・判断と大きな関係を持つ心に焦点をあてて編集されています。また、心のふしぎ、いのちのふしぎなど、心のひみつについて親しみやすいイラストとともに説明されています。心にまつわる疑問を解説する形式でとてもわかりやすく説明されており、自分の心と向き合う工夫がされているところがよいとの報告を受けました。3冊目は、主婦の友社「未来へむかう心が育つおはなし」です。これは、民話や名作、詩、伝記など様々な話が集まっています。どの話にもイメージがふくらむ挿絵があり、楽しく読み進めていける工夫が盛り込まれていること、一話ごとに学びのポイントが示されることにより、学習が効果的に進められるよう配慮されていることから選定したとの報告を受けました。4冊目は、合同出版の「イラスト版 気持ちの伝え方」です。これは、「こんなとき、なんて言うんだらう」と思ったときに、すぐ使えるように実践的な例をあげて説明されています。それぞれの事例ごとに、ワークがあり、自分の気持ちや考えを自分の言葉で表現するためのヒントもわかりやすく紹介されています。話し方のスキルだけではなく、相手も自分も尊重してコミュニケーションをとろうという気持ちにさせる工夫がされているところがよいとの報告を受けました。弱視学級については、文部科学省著作本である点字版、そして、検定教科書と同一内容の文字等を拡大した拡大教科書が選定されています。以上でございます。

教育長

それでは質問、ご意見を賜りたいと思います。

内記委員教育長職務代理者

今回の「特別の教科 道徳」への改訂にはいじめ問題が大きく影響していると思いますが、それぞれの教科用図書での扱い方には違いがあったのでしょうか。

学校教育課指導主事

内記委員のご指摘のとおり、今回の改訂のきっかけとしていじめ問題も上げられています。保護者や地域の皆さんも注目されていることと思います。そういったことも踏まえて、今回の調査委員会の調査研究観点には、「いじめ」が付け加えられ、調査研究されました。調査委員会からは、どの教科書についても工夫して取りあげられているとの報告を受けています。いくつかの教材を組み合わせでユニットを作っている発行者もありました。選定されました日本文教もいろいろな教材を組み合わせ、多面的に考えられるように配慮されていますし、以前から使用している教材でもある3年生の「卒業文集最後の二行」は、読

んだだけでジーンと胸にくるような教材で、そういった教材をうまく使いながら子どもの心に響く授業を考えていきたいとの報告も受けました。

教育長

よろしいですか。

内記委員教育長職務代理者

道徳の授業だけでいじめがなくなるとは思いませんが、いじめをなくすためにこれらの授業として、どのように指導されますか。

学校教育課長

委員のご指摘のあった通り、昨年度改訂された「栗東市いじめ防止基本方針」では、いじめ防止のために「社会性や規範意識、思いやりなどの豊かな心を育むため、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進する。」とあります。「特別の教科 道徳」の授業を要としながら、あらゆる機会に指導するとともに、知識だけの理解にとどまらず、生徒自らが防止に向けて活動できるような実践的な態度の育成も図ってまいりたいと考えます。

教育長

他に、ありますでしょうか。

林委員

先程の説明では、字も大きいし親しみ易いと思うのですが、最終的に別冊のノートが決め手になったように聞こえました。教科書そのものの内容が大切なのではないのでしょうか。

学校教育課指導主事

林委員お考えのとおり、まず、どういう教材があるのかが重要であり、その点については、十分に調査されました。ノートについては、最後まで議論となった点です。発問が最初から書かれていて、使いづらいのではないかという意見もあり、その点については、時間をかけて検討をされました。その中で、ノートはそれぞれの教員の経験値の差を埋めるものとしても活用できるのではないか、授業をする上で、使いづらい場合は、附属の CD-ROM により、発問無しや発問変更といったワークシートのアレンジができるのではないか、ワークシートを使用した場合は、その後、このノートに貼ることで、生徒が書いた内容が散逸しないのではないか、授業の展開に応じて部分的に使うと無理なく使用することができるのではないか、評価や家庭との連携を取れたり有効に活用することも可能でないかということから、道徳ノート付でも良いであろうという事になったようです。ノートが良いというより、トータルして日本文教が良いという結果になりました。

教育長

よろしいですか。

林委員

どの先生も、子どもに対して同じように指導できる指導力をあげていただくことが大切だと思います。ノートの活用などの工夫と同時に、教員の指導力向上に向けてもよろしくお願ひしたいと思います。

学校教育課長

市教育委員会としましても、教育研究所の講座や先進校での授業研究会を積極的に参加や案内など教員の力量が高められるよう工夫してまいりたいと考えます。

教育長

林委員、よろしいですか。

田中委員

今回の改訂では、答えが一つではない道徳的な問題を一人ひとりの子どもたちが自分自身の問題として捉え、お互いが納得できるよう話し合う「考え、議論する道徳」へと転換を図ることが求められていると認識しています。先ほどの林委員との質問と関連するのですが、「考え、議論する」とこととノートがあることとの整合性という部分で少し疑問を感じます。ノートがあることで自分の考えをまとめるだけの、従来とあまり変わらない道徳になってしまうのではないのでしょうか。ノートをまとめることで、終わるということにはならないのでしょうか。

学校教育課指導主事

委員の心配されておられる点については、新学習指導要領にも「生徒自らが考え」「自分の考えを基に討論したり」とあり、「考え、議論する道徳」へと質的転換が求められています。確かにノートに自分の考えをまとめるだけでは、「対話的な学び」や「深い学び」にはなりません。自分の考えをまず持ちそれを友だちと討論しあうことで新たな気づき生まれ、道徳的価値の深まりにつながるような授業展開を考えていきたいと思ひます。日本文教のノートには、自分の考えをもった後に、「友達の意見や話し合いをメモしよう」という欄が設けられており、そういったことを意識した構成になっています。

田中委員

すべての生徒が道徳の時間を通して「深い学び」ができるよう管理職の指導のもと、学校教育全体で取り組めるようご指導いただければと思ひます。

学校教育課指導主事

はい。学校全体で取り組めるように努力し、指導してまいります。

教育長

田中委員、よろしいですか。他にいかがですか。

朽木委員

同じ教材だが発問方法が違うのはどうしてですか。例えば「二通の手紙」という教材は、ほとんどの発行者で取り扱っていましたが、発問の仕方が少しずつ異なっていたように思います。それについては、何か協議されたのですか。

学校教育課指導主事

はい。この教材については、協議会で意見が出ていました。この教材は、「私たちの道徳」にも掲載されていて、深く考えられる教材になっています。多くの研究授業で活用されているとの報告も受けました。学習の進め方や発問については、協議会でも質問がありました。日本文教は、3年生の106頁から112頁にありますが、写真を入れながら議論の仕方を分かりやすく示してあります。今までの道徳では、登場人物の心情を追っていくといったものが多かったのですが、違う面から切り込むといった発問が、日本文教の教科書には多く見られたという報告も受けました。

朽木委員

もう一つ、同じ教材でも発行者によっては学年が異なっていますが、その点については、協議されたのでしょうか。

学校教育課指導主事

はい、その点につきましても協議会で質問がありました。『足袋の季節』という教材が、2年生で4者、3年生で4者取り扱っています。日本文教は2年生でした。調査委員会では、おばあさんの気持ちを深く考えさせるのなら、発達段階を考えると3年生で扱うのがいいのではないかという意見があったようですが、DVD資料を活用してイメージをふくらませたり、発問を工夫したりすると、2年生でも扱えるのではないかという意見もあったようです。こどもの実態や学校の実態にあわせて、使用する方が良いのではという意見がありました。

教育長

よろしいですか。他にいかがですか。

林委員

田中委員は、第二採択協議会委員として選定に関わっていただいたと思いますが、どのようなご意見をお持ちですか。お聞かせください。

田中委員

はい。協議会では、活発に話し合いがされました。協議会では設定された時間より超過されての協議でした。協議委員会の担当者は、非常に的確に説明をされていたことにより、私達委員は、簡単に理解することができました。改訂のねらいを大事にしながらも、道徳の要は以前と変わらず同じとしています。学級の様子や目的により、資料を自由自在にアレンジできる日本文教は適していると私自身も感じました。道徳の授業で学習したことが、生きる糧の一つになればと思います。

林委員

ありがとうございます。指針がはっきりしているものは、私も良いと思いました。

教育長

よろしいですか。他いかがですか。

朽木委員

感想ですが、今までは特別支援学級に在籍する生徒はそれぞれ障害の程度が違いますので、教科書についてどのように選定されているのか関心を持っていたのですが、今回、4冊の一般図書が「特別の教科 道徳」の教科書に変わる図書ということで選定されたので、このように児童の実態に合わせて教科書を選べるしくみであるということで自分自身納得できました。

学校教育課指導主事

朽木委員のおっしゃるとおり、特別支援学級在籍児童は、児童の実態に合わせて、学習指導要領の目標を踏まえながら、自立と社会参加のために必要な知識、技能、態度、習慣を養うことを目的に個に応じた指導を行う必要があります。そういったことから、自立活動や生活単元学習など体験的な活動の中で指導ができるものであったり、円滑なコミュニケーションや人間関係をつくるための社会性が養えるものであったりということを重点として選定されています。

教育長

他に、ご意見ございませんでしょうか。では、私の方からも述べさせていただきます。協議会でも活発に話し合いをされ、調査委員会でも検討に検討を重ねながら、選定をされました。調査委員からも的確な説明をいただきましたので、よりよい選定がなされました。

教育長

それでは特にないようですので、採決いたします。ただ今、議論いただきましたように、

今年度新たに選定をされました図書を含めまして、議案第3号「平成31年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択につき議決を求めることについて」ご異議ございませんか。

各委員

(異議なし)

教育長

それでは、原案どおりの内容で採択いたします。

以上で平成30年度栗東市教育委員会第2回臨時会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会宣言 16:10